



## 進脩館跡（小幡記念図書館）

藩校進脩館では、儒学・蘭学と並び、国学が教えられました。渡辺重名はその教授として着任しました。創設した藩主奥平昌高が揮毫した進脩館の扁額は、南部小学校に残されています。



## 闇無浜神社

中津城下の北、角木に鎮座する神社で、龍王のお宮とよばれて親しまれています。万葉集にも闇無浜を詠んだとされる歌があり、万葉歌碑が立てられています。重名が依頼した中津八景の中にも「倉無浜月」が選ばれていて、橘千蔭が詠んでいます。



## 合元寺（藤田敬所墓碑）

儒者倉成龍渚は、藩校進脩館の創設にあたり学制を定めるなど大きく尽力しました。その交遊は広く、三浦梅園は龍渚の宅にて渡辺重名と交流をもったことを記しています。龍渚が選文した師・藤田敬所の墓碑が赤壁合元寺にあります。



## 大江八幡宮

中津城下の南、萱津に鎮座する神社で、宇佐神宮の若宮を祀っています。渡辺重辰が賜った神道裁許状にあるように、古表神社の神官だった渡辺家は、若宮（大江）八幡宮の神官も兼帯していました。



## 城井神社

中津城内に鎮座する城井神社には、天正16年に黒田氏によって謀殺された宇都宮鎮房の霊が祀られています。明治21年に執り行われた300年祭では、鎮房家臣・渡辺右京の子孫である重春が祝詞をあげました。



## 増田宋太郎記念碑

増田宋太郎は幼い頃から従兄弟にあたる重春や重石丸から教育を受け、尊皇攘夷の思想に染まります。開明派の福澤諭吉の暗殺を目論んだことは有名なエピソードです。西南の役では増田をはじめ重石丸の教育を受けた志士が多く戦死したため、責任を感じた重石丸はショックを受けて職を辞しました。



## 安全寺

安全寺は増田家の菩提寺。渡辺重名の娘・刀自は中津藩士増田久行に嫁ぎ、宋太郎を産みました。安全寺には宋太郎と妻シカの墓の他に、久行と刀自の墓も現存します。



## 道生館跡

重名は国学や万葉集について櫻町の自宅で私塾を開きました。その後、孫・重春、重石丸の時、塾生の増加に伴って離れ兼書院であった建物を改築し、「道生館」と名付けて、幕末には増田宋太郎などの維新志士を輩出しました。



## 皇学校跡

皇学校は、明治2年に重石丸が京都皇学所の御用掛に任じられ、道生館が閉塾となり、皇学教育の場が失われることを危惧した増田の提言によって設立されました。のちに西御門皇学校と改称されましたが、明治5年に進脩館と合併し片端中学校となりました。



## 八幡古表神社

家系図によれば、黒田氏に討ち取られた重国の子重友は、乳母に匿われて生き延び、寺社の再興を図った細川忠興によって、再び神職に復帰しました。渡辺家は古表神社の神官に任じられ、傀儡子神事も再興しました。

